

## 5-1 東海・南関東地域の地震活動（1992年5月～10月）

### Seismic Activity in the Tokai and Southern Kanto Districts (May–October, 1992)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

第1図(a)～(f)は1992年5月～10月の東海・南関東地域における月別震央分布図、第2図(a)・(b)は1992年5月～7月と8月～10月の3か月間ごとの震央分布図、第3図は1992年1月～6月の6か月間の震央分布図である。いずれも震源の深さが90km未満の地震の震央を示してある。第4図(a)・(b)は1992年5月～7月と8月～10月の3か月間の主な発震機構解である。この期間、特に目立った地震活動としては、5月11日茨城県北部のM5.6、5月29日銚子付近のM5.2、6月15日神津島近海のM5.2、7月30日岐阜県西部のM5.3、10月17日新島近海のM5.1などであった。

東海地域は、7月7日浜名湖付近のM4.6以外、特に目立った活動はない。伊豆半島東方沖の群発地震の発生はなく静穏だったが、上記神津島近海のM5.2の地震など新島・神津島近海の地震活動が活発だった（本巻別項参照）。各月の活動状況は次のとおり。

5月：この月のMの最大は茨城県北部のM5.6（11日19時07分）、深さは56.2kmで最大震度はⅣ（水戸）であった。東海地域は特に目立った活動はなかった。静岡県南西部で21日から28日にかけて小群発活動（最大のMは2.9）があったほか、東海道はるか沖でM3クラスが1個発生した。伊豆半島東方沖の活動は極めて静穏だった。神津島近海でM4.9（14日07時31分）、深さ3.8km、最大震度Ⅳ（神津島）およびM3.9の地震があった。そのほか上記茨城県北部のM5.6の地震、千葉県北部、福井県沖、八丈島近海および茨城県沖のM4クラスの地震、銚子付近のM5.2（29日02時58分）、深さ54.4km、最大震度Ⅱ（水戸）の地震が目をつけた。また、深さ90km未満であるが、東京湾南部でM4.8の地震があった。これは2月2日M5.9の地震の余震である。

6月：Mの最大は神津島近海のM5.2（15日10時46分）、深さ7kmで最大震度はⅤ（神津島）\*1)。東海地域は特に目立った活動はなかったが、静岡県南西部の小群発活動が引き続き発生している。また、遠州灘と志摩半島沖でM3クラスの地震、愛知県内でM3クラスの地震3個があった。伊豆半島東方沖は前月同様活動レベルは低いが、M3.1（3日02時21分）、深さ11km、最大震度Ⅰ（網代、大島）の地震があり、26日手石海丘付近で微小～極微小地震が4個発生した（本巻別項参照）。周辺地域では上記神津島近海のM5.2の地震のほか、岐阜県中部、長野県中部でM4クラス、八丈島東方沖でM4クラス2個の地震があった。また、90km未満であるが、東京湾南部でM4クラスの地震があった。

7月：Mの最大は岐阜県西部のM5.3（30日20時16分）\*2)、深さ38kmで最大震度はⅢ（名古屋、岐阜など）。東海地域は浜名湖付近のM4.6、天竜川河口付近のM3.7の地震など静岡県南西部でやや活発だったほかは、特に目立つ活動はなかった。浜名湖付近でM4.6（7日00時11分）、深さ38kmで最大震度Ⅲ（浜松）とM3クラスの地震があり、天竜川河口付近でM3クラスの地震3個（本巻別項参照）が連続して発生した。東海道はるか沖、紀伊半島南東沖、三重県北部、三河湾でM3ク

ラスの地震があった。伊豆半島東方沖の活動レベルは低い、初島付近でM2.7（16日01時18分）、震度Ⅱ（網代）の地震があった（本巻別項参照）。周辺地域では、新島・神津島近海でM3クラスの地震が3個あるなど、活発な活動が続いている。また、上記岐阜県西部のM5.3の地震が1891年濃尾地震（M8.0）の断層の南西側で発生した。この付近でM5以上の地震は珍しい。この地震では前震、余震とも観測されなかった。そのほか、銚子付近、千葉県北部のM4クラスの地震が目をつけた。

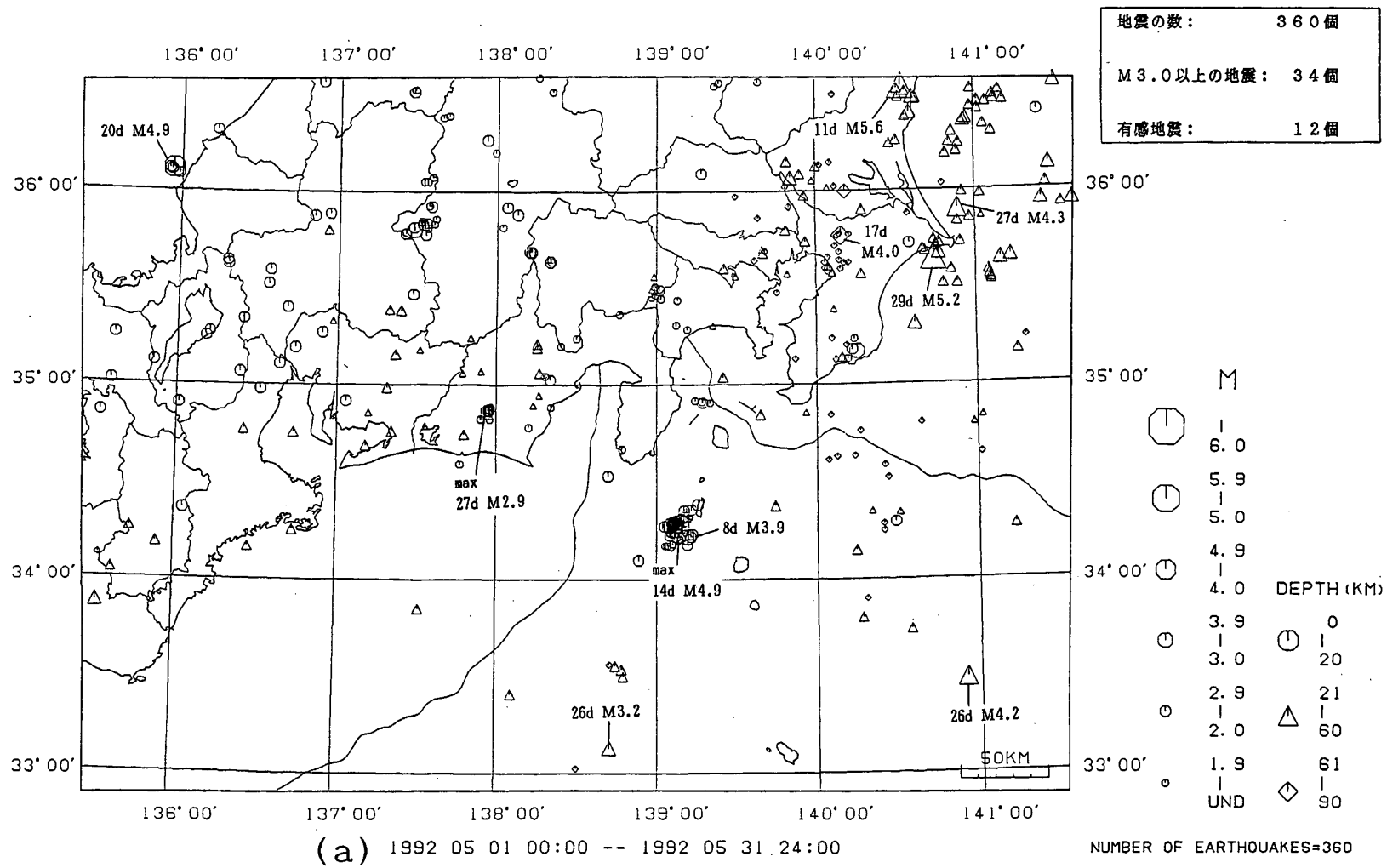
8月：Mの最大は茨城県南西部のM4.7（27日13時09分）、深さ57kmで最大震度はⅢ（水戸）。東海地域は山梨県南部のM3.9の地震のほかは、特に目立った活動はなかった。山梨県南部（B領域）でM3.9（9日00時27分）、深さ17kmで最大震度Ⅱ（網代）の地震があった。また、静岡県中部（B領域）、東海道はるか沖、愛知県東部、三河湾でM3クラス、御前崎南方沖でM2クラス4個の地震があった。伊豆半島東方沖の活動レベルは低い。周辺地域では、新島・神津島近海でM3クラスの地震が2個あるなど活動が継続しているが、神津島以南での地震活動が見られなかった。また、上記の茨城県南西部、長野県中部のM4クラスの地震が目をつけた。また、90km以深であるが、東海道はるか沖でM6.6（30日04時19分）、深さ325kmで最大震度Ⅲ（東京）の深発地震があった。

9月：Mの最大は銚子付近のM4.7（25日23時20分）、深さ46kmで最大震度はⅡ（銚子）。東海地域は特に目立った活動はなく、静穏だった。静岡県西部でM3.4（30日）、深さ17kmの地震があった。この場所では1991年8月頃から微小な地震が発生していたが、M3クラスは珍しい。東海道はるか沖、愛知県西部、三重県北部でM3クラスの地震があった。伊豆半島東方沖の活動レベルは低い。周辺地域では、新島・神津島近海でM3クラスの地震が3個あるなど前月よりやや活発な活動があった。新島近海で16日、小規模な群発地震があり、M3.5（16日17時06分）、深さ8kmで最大震度Ⅳ（神津島）の地震が発生した。被害の報告はない。銚子付近（銚子の北東から南東沖合）では上記M4.7を含むM4クラスの地震が4個発生するなどやや活発だった。その他、鹿島灘、奈良県中部でM4クラス、紀伊半島南東沖、山梨・神奈川県境でM3クラスの地震があった。

10月：Mの最大は新島近海のM5.1（17日23時37分）、深さ4kmで最大震度はⅣ（神津島）。東海地域は特に目立った活動はなく、静穏だった。浜名湖付近でM3.2（26日）、深さ29kmの地震があった。また、東海道はるか沖、愛知県中部でM3クラスの地震があった。伊豆半島東方沖の活動レベルは低い。周辺地域では、新島近海で上記M5.1の地震があり、M4.0とM3クラス2個を含む余震活動があるなど活発な活動があった。その他、相模灘、東京湾、八丈島近海、千葉県中部でM4クラスの地震があり、滋賀県南東部、三重県北部でM3クラスの地震があった。

\*1) この地震の再計算結果（最終値）は次の通り。震源時6月15日10時46分34.0秒、 $34^{\circ} 08.9' N$ 、 $139^{\circ} 06.5' E$ 、深さ6.9km、M5.2。

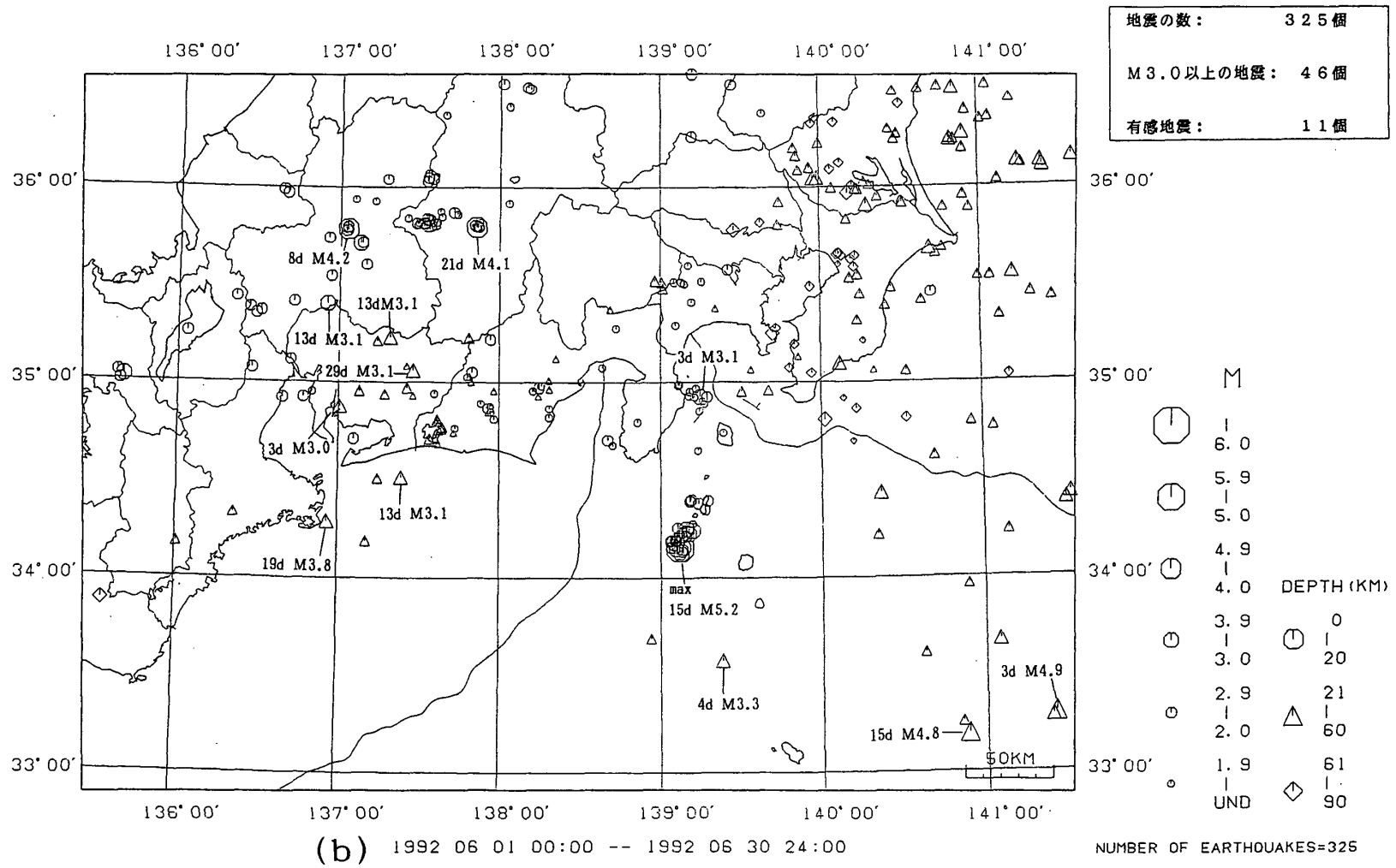
\*2) この地震の再計算結果（最終値）は次の通り。震源時7月30日20時16分39.2秒、 $35^{\circ} 30.5' N$ 、 $136^{\circ} 30.4' E$ 、深さ38.3km、M5.3。



(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図(a)~(f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (1992年5月~10月)

Fig. 1 (a)~(f) Monthly earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts (May~October, 1992).

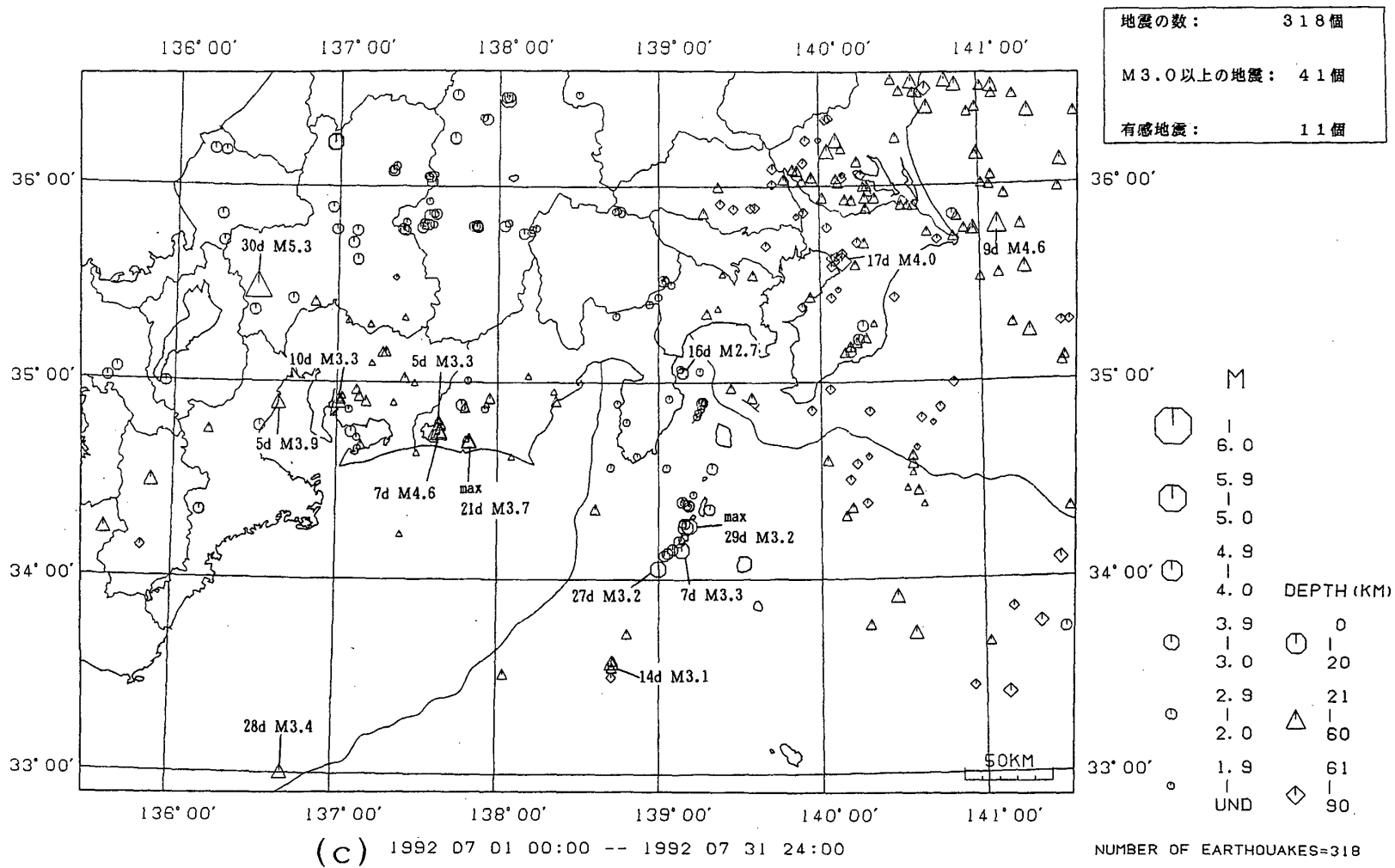


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

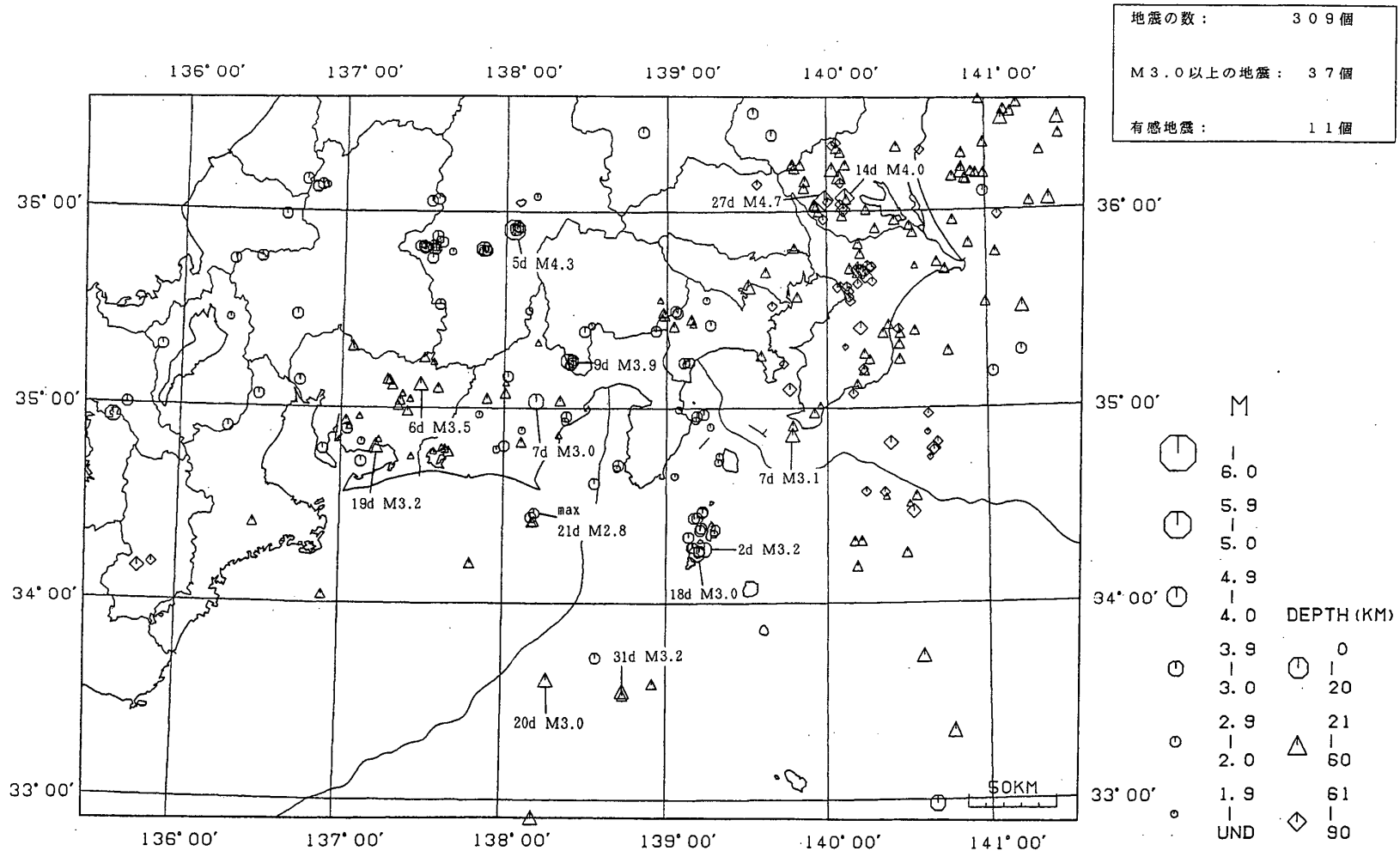
Fig. 1 (Continued)



暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき  
Fig. 1 (Continued)



(d) 1992 08 01 00:00 -- 1992 08 31 24:00

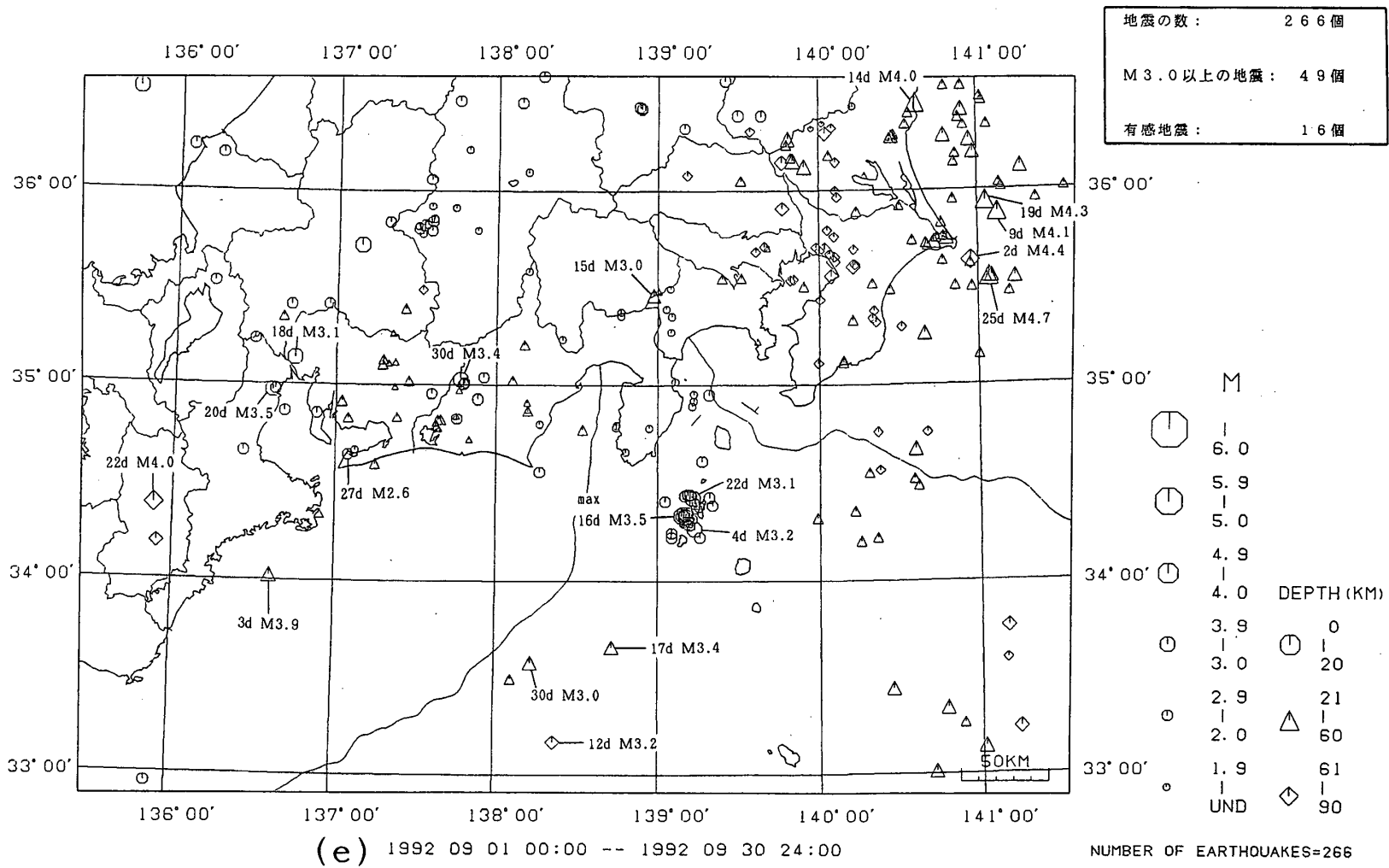
NUMBER OF EARTHQUAKES=309

暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

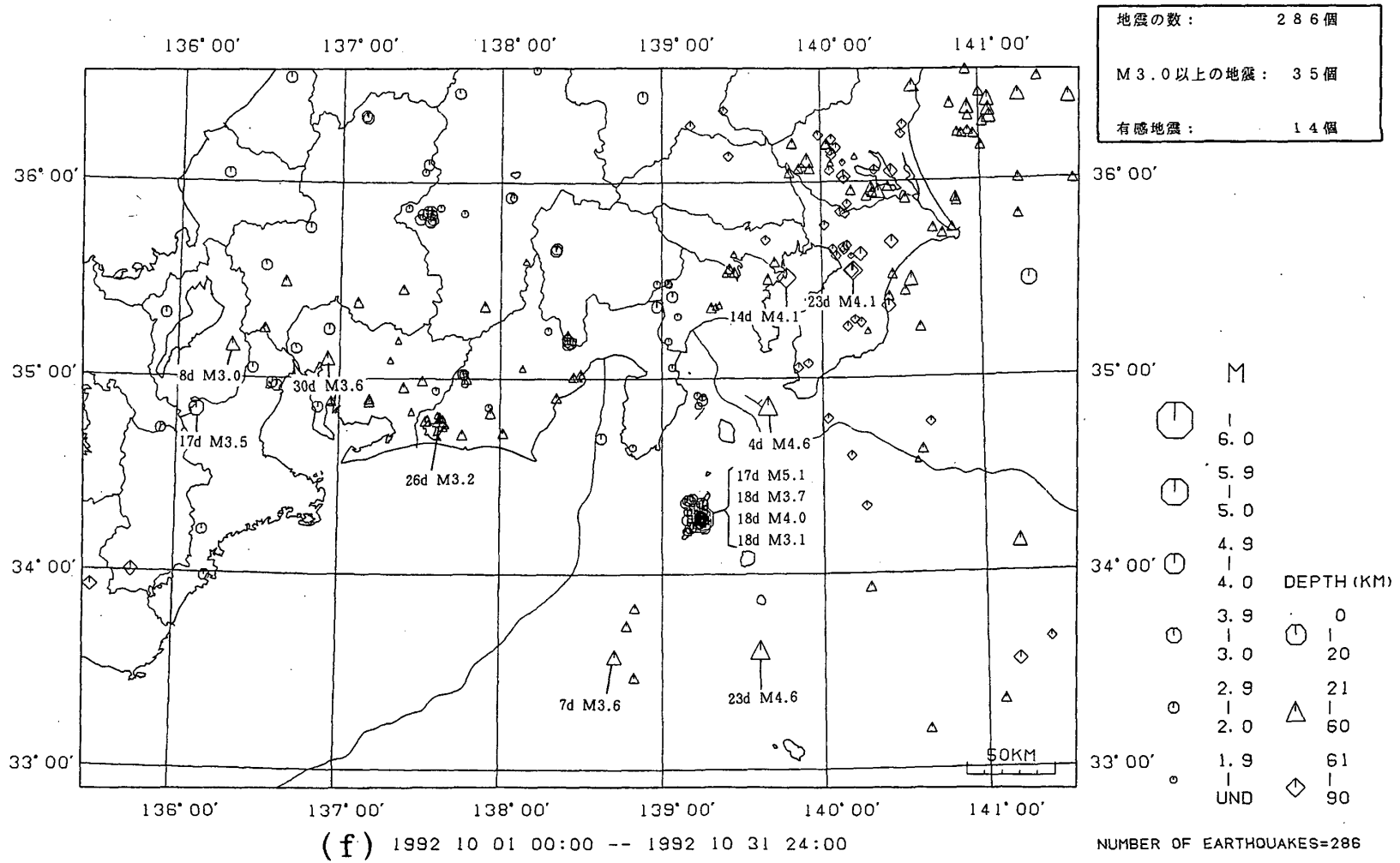


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

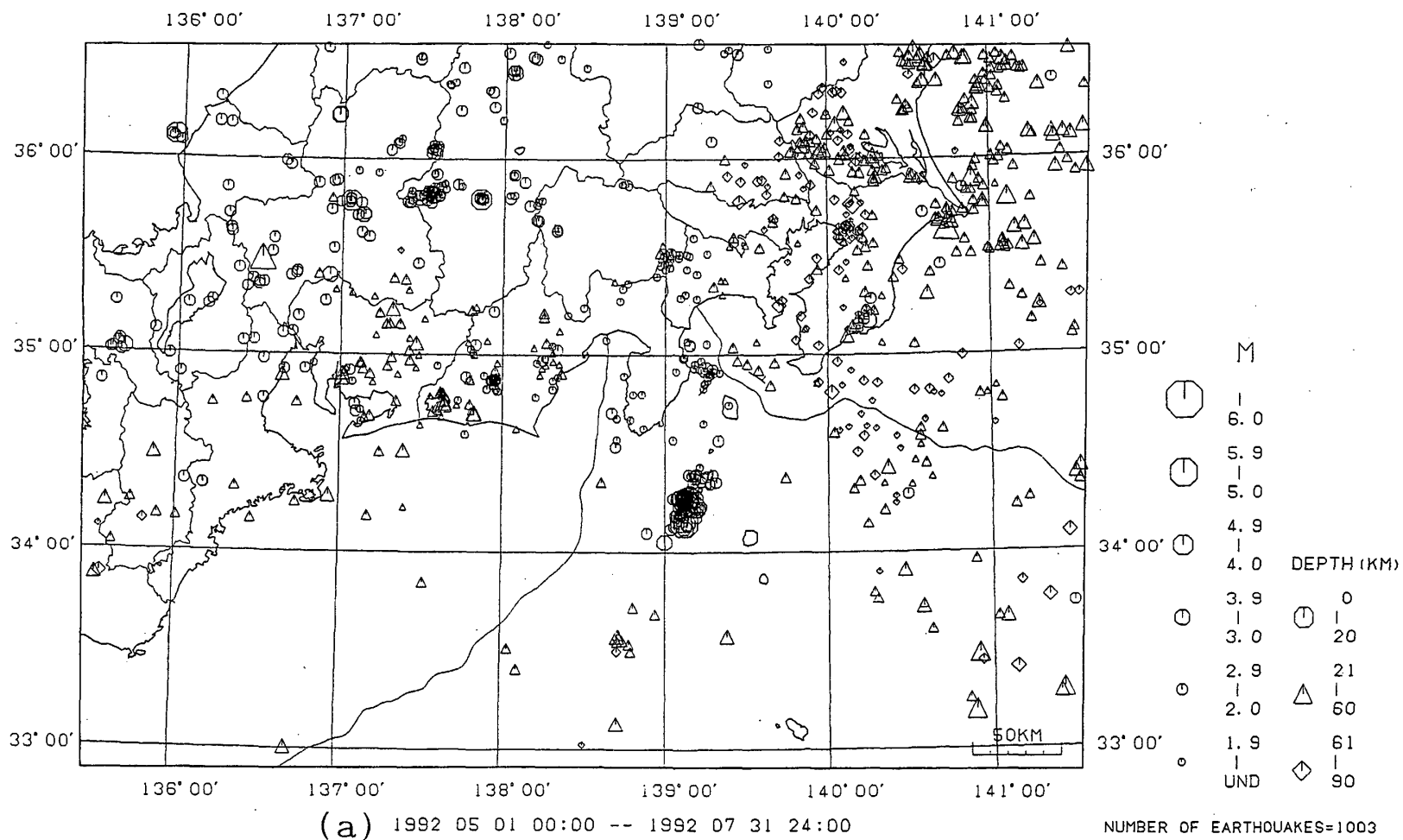


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

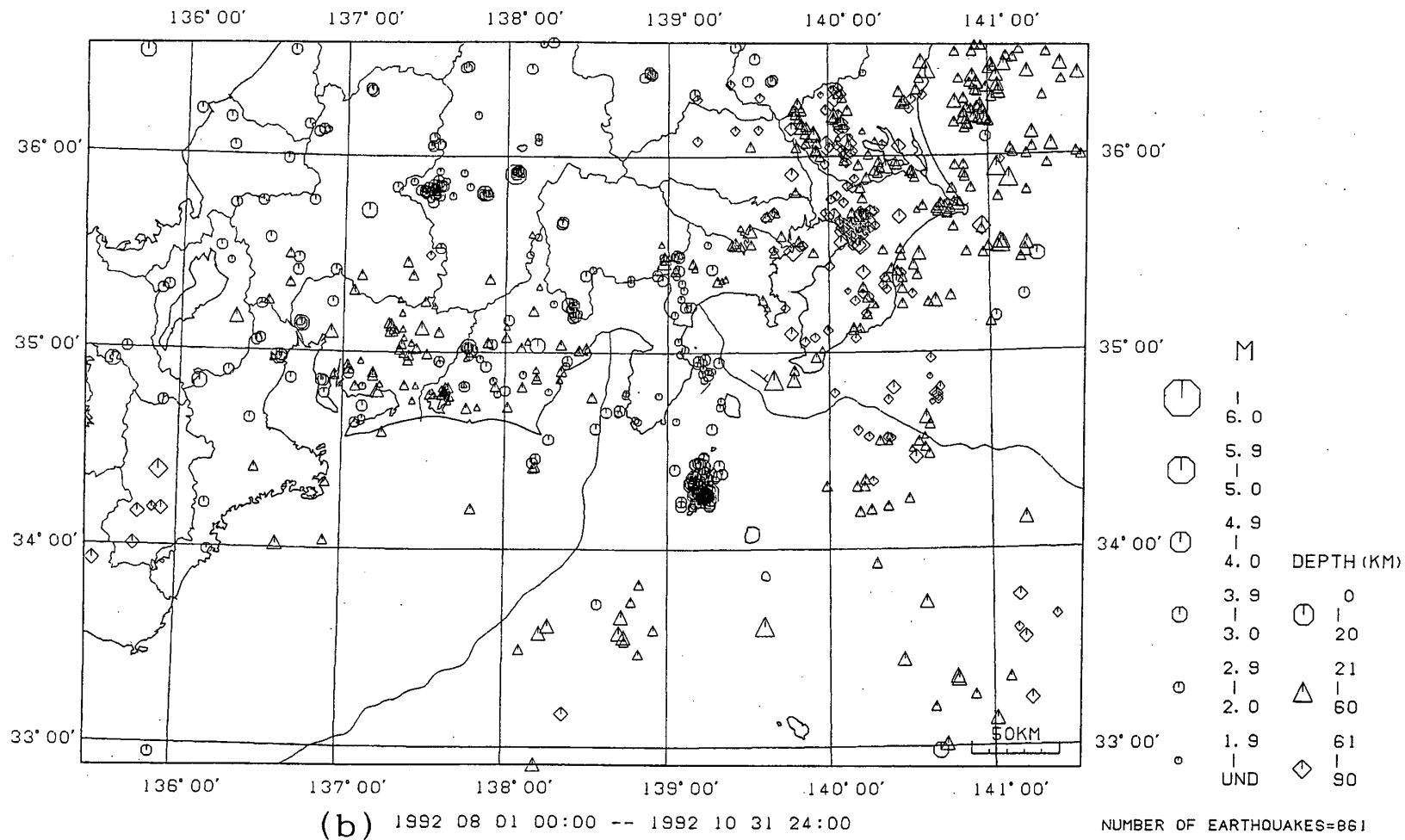


暂定 : 1992年 6月→

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図(a)・(b) 東海・南関東地域に発生した地震の3か月毎の震央分布 (1992年5月~7月, 8月~10月)

Fig. 2 (a)・(b) Quarterly earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for (a): May-July and (b): August-October, 1992.

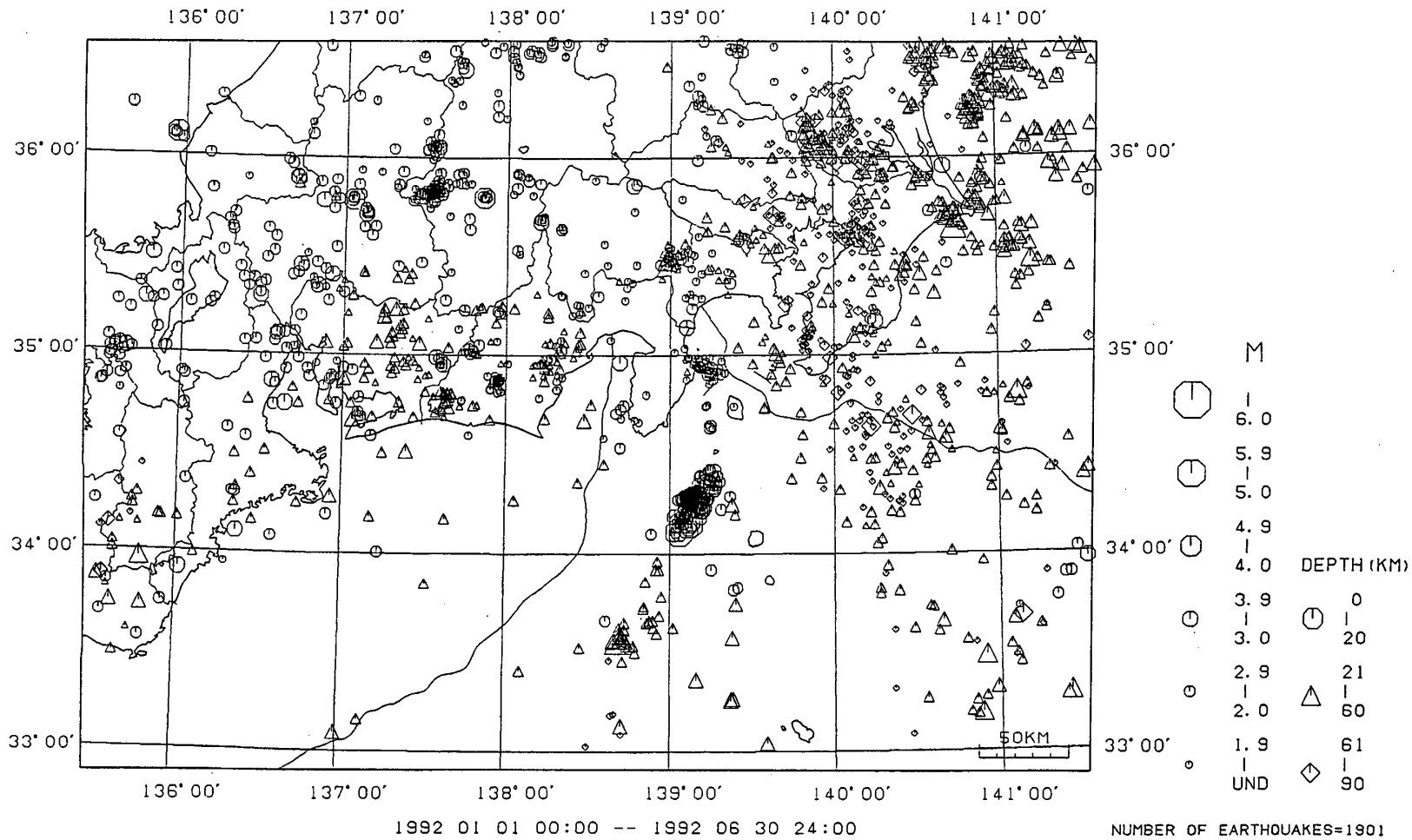


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



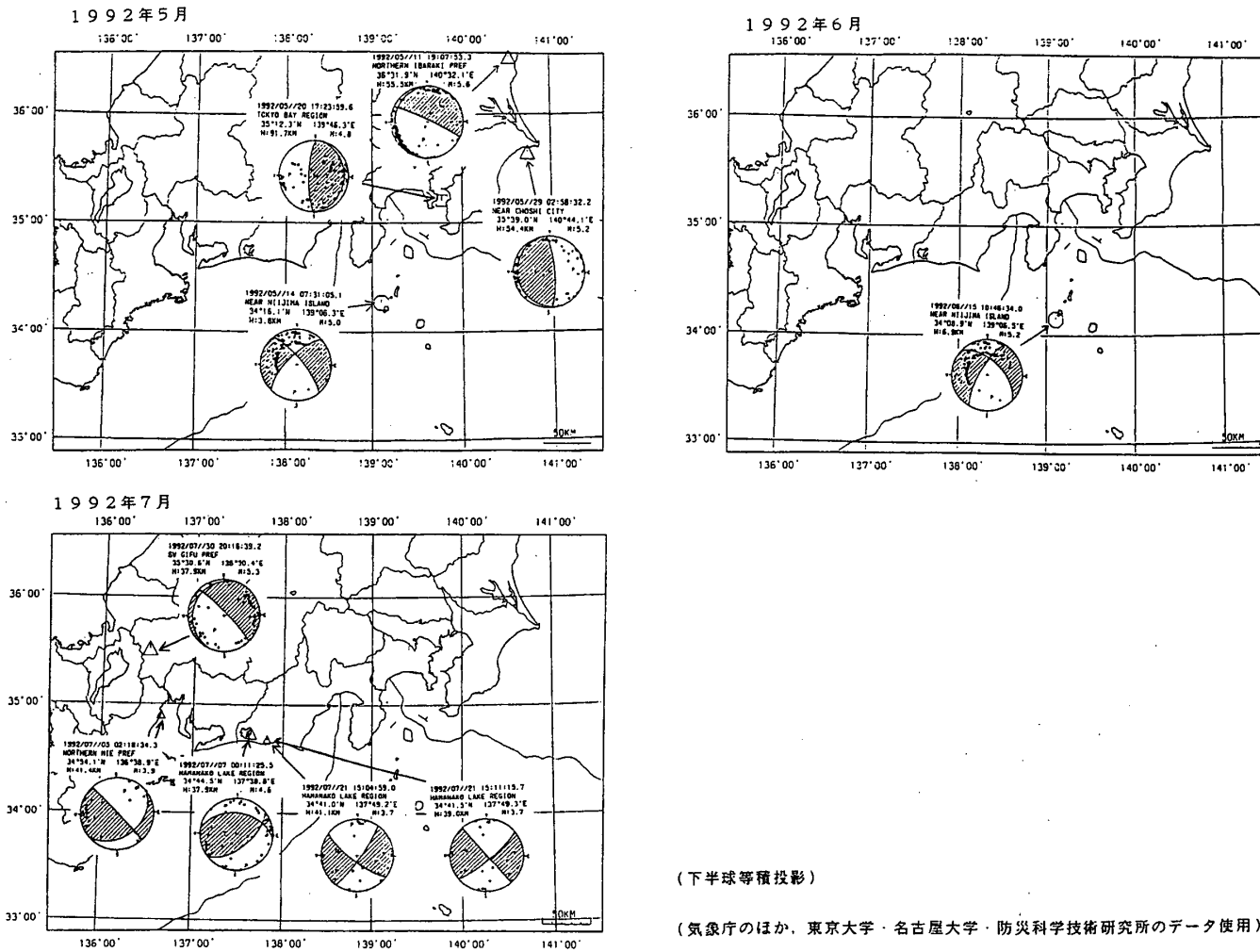
暫定 : 1992年 6月→

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第3図 1992年1月～6月の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for January–June, 1992.

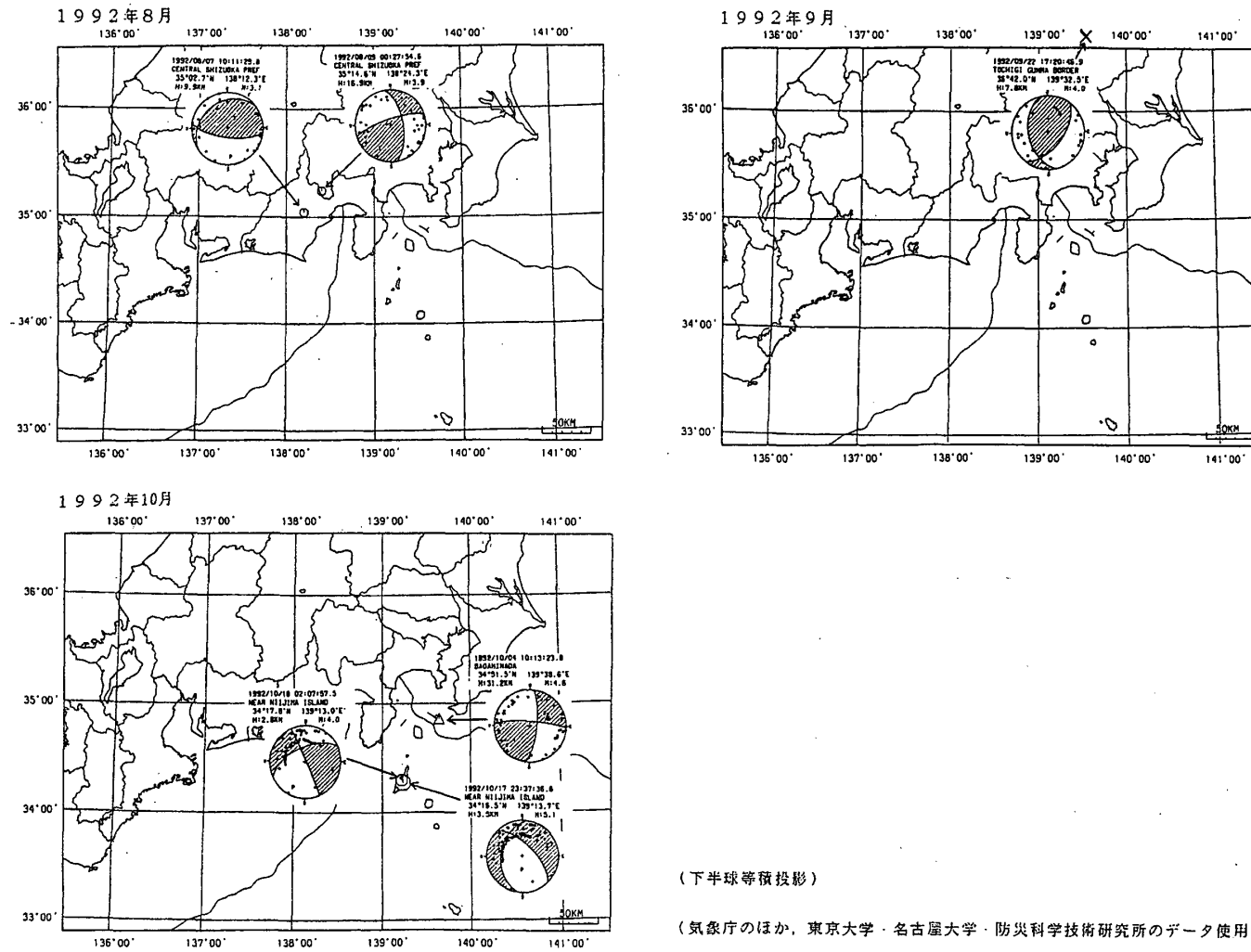
(a) 発震機構解 (1992/5~1992/7)



第4図(a)・(b) 東海・南関東地域に発生した主な地震の3か月毎の発震機構解

Fig. 4 (a)・(b) Quarterly focal mechanism solutions of main earthquakes in the Tokai and Southern Kanto Districts for (a): May–July and (b): August–October, 1992.

(b) 発震機構解 (1992/8~1992/10)



第4図 つづき

Fig. 4 (Continued)